



春日の風

No.6

文責 松下 義彦

前期前半を終えるにあたって

さて、今日で前期前半が終わり、明日から夏休みに入ります。

みなさんにとって、前期前半は、充実した期間になったでしょうか？

少し振り返ってみます。1年生は、4月の入学式、対面式、さらには初めての体育会があり、慣れない中学生活に驚くことや感動する場面が多かったのではないのでしょうか？また、2年生は、リーダーとして自分たちの力を発揮する場面が多くなり、同級生や後輩に教えたり指示したりすることに喜びや難しさを感じた期間かも知れません。

さらに、3年生は、5月の体育会、そして修学旅行、さらには先日行われた中体連大会など中学校の最後の活動に充実感や達成感を感じたり、時には悔しさを感じることもあったのではないのでしょうか？

校長先生から見て3年生は、学校行事や部活動に精一杯頑張っていました。体育会では保護者の方から「素晴らしく感動しました」「一生懸命頑張る姿に涙がでてきました」という感想がありました。皆さんが真剣に汗や涙を流しながら頑張っていた姿をみて、保護者や地域の方も大きな感動を感じられたと思います。

また、部活動においては、結果が思った通りではなかった部活動もあるでしょうが、部活動全体で意識や気持ちを高めた三年間の努力は、先生から見ても素晴らしかったです。心から拍手を送りたいと思います。

さて話は変わりますが、先日、次のような話を読みました。

昔むかし、ヨーロッパのある村のお話です。何十年もその村で先生をやった方が、先生を辞めて自分の故郷に帰ることになりました。村人たちは、大人も子どもも、とてもお世話になった方なので、何か贈り物をしようと話し合いました。ところが、その村は大変貧しい村で、先生にお金をかけて贈り物をするような余裕はどの家にもありません。そこで村人たちは、村の名産であるぶどう酒（ワイン）を贈ろうと決めたのでした。村の広場の真ん中には、大きな樽（たる）が置かれました。それぞれの家庭では、自分の家で作ったワインを少しずつ持ち寄って樽に入れます。多くの方が参加し、樽はワインで一杯になり、それを先生に贈りました。先生は村人たちからの思いがけない贈り物に大変喜び、感謝の言葉を大勢の人々に告げ、村人たちや子どもたちと別れるのはつらいけれど、大好きなワインをもらったので、故郷に帰っても楽しみでした。故郷に帰って二、三日してから先生は、「さて、いただいたワインを味わってみることとするか。」と樽からワインをグラスに注ぎました。しかしそのワインを口にしたら途端、先生の表情が、「期待と喜び」から「疑惑と驚き」へと、みるみる変わりました。なぜかという、グラスに注がれた液体は、どう味わっても「水」だったのでした。

どんなお話だったか、理解できましたか？ つまり、村人たちは、一人ひとりが「自分一人ぐらい、ワインでなく、水を入れたところで、大量のワインの中に入れる少しの水なのだから、大きな樽の中の味が変わる訳はない。水を入れておけ。」と考えたのです。これが本当にたった一人だけの行動だったら、おそらく先生が注いだ液体は「ワイン」だったでしょう。しかし残念なことに、全員がそのように考えてしまったのです。つまり樽に注がれていたのは、初めからワインではなく、水だったのでした。一人、二人ぐらいはワインを入れた人もいたかもしれませんが…「自分一人だけなら」という考え方を全員が持ったとしたら、どんなことになってしまうのかを皮肉った教訓的な話として現代にも読み継ぎ、伝え継がれているようです。

現実的に、こんな話はないだろうと思いますが、確かに全員が「自分一人だけなら」とずるい考えをもって行動したとしたら、「自分一人」でなくなってしまう場合、どんなことになってしまうのだろうと思うと怖い話だと思いませんか。

そこで、私たちの春日中学校の生活で考えてみましょう。今、君たちは委員会活動の一環として様々な点検活動を行っています。その中で「自分一人ぐらいやらなくていいや」という気持ちがあると、いつまで経ってもそのクラスは全員でできるようにはなりません。「自分一人ぐらい」という考え方は、集団で生活したり、複数の人々が力を合わせて何かをやるうとしたりする時に、非常に危険な考え方であると、とらえることもできます。

およそ、世の中の負の部分の構成する要素は、「自分一人ぐらい」という側面があります。「自分一人ぐらい」の後ろには「わかりっこない・バレっこない。」という言葉が続きます。ルール違反も、いじめも、事件、事故、様々な犯罪も。大きくとらえると、この考え方が源にあるような気がします。みなさんが安心して生活できるためには、この「自分一人ぐらい」という考え方を捨て、生徒会活動や学校行事の中で一人ひとりが「自分がやらなきゃ」という気持ちを持って欲しいと思います。

夏休みに入ると、1・2年生は、部活動が新しいチームとなり先輩方の気持ちを受け継ぎ雰囲気作り、技術向上に向けて努力していくこととなります。3年生は部活動をしていた時間が自分の時間となり、たくさん使える時間ができます。3年生は、是非時間の有効な使い方をしてください。充実した夏休みにできるかどうかは、みなさんが今までの時間の使い方と夏休みの時間の使い方を意識して変えることだと思えます。計画的に頑張ってください。

最後に最近には特に熱中症で倒れたり、水の事故等が増えています。健康や安全に気をつけて過ごしてください。夏休み明けの始業日に笑顔で会いましょう。